



農の未来ネット

NO.3

「農の未来ネット」

理事長：倉本器征（東京農工大学名誉教授）

発行責任者：田沼 繁（農の未来ネット事務局：電話・ファックス：042-313-3620）

編集長：西村正昭

今後とも・・・ フェアビнденと連携

「農の未来ネット」事務局長

田沼 繁



【写真】神田駿河台の食農研センターフェアビнден

普段呼ぶのは、「フェアビнден」なのですが、正式には「特定非営利活動法人食農研センター ワーカーズフェアビнден 食と農の談話室」という長ったらしい名称なのです。そのフェアビнден代表の石井正江さんは、長ったらしい名前に似合わず、会話は歯切れよく、大変気さくな女性です。その石井さんをはじめフェアビнденの方々から、農の未来ネットは設立準備段階から運動の趣旨をご理解いただいております。3月28日の設立総会は温かいご支援のもとフェアビнденのお店で開くことができました。縁は異なるもので、農の未来ネットは、今後ともフェアビнденと連携していきます。

さて、フェアビнденは、国産の農産物を100%使ったお弁当（食事）づくりを運動の目標としています。現状では、スパイス等の調味料は外国産のものを使わざるを得ないものもあり、いまは国産農産物95%のお弁当を提供しているとか。お店は、学生街でもあり、オフィス街でもある、千代田区神田駿河台でお茶の水駅も近く、お昼ときにはお弁当を求めお客さんが列をつくっています。その場で食べたい方は、お店でのランチもOKで、すてきな器に盛り付けられた食事も人気です。最近では、お馴染みのお客さんも多く、安全・安心な国産農産物使用の食事は高い支持を得ています。また、お店では連携している農家の方の農作物やクッキーなどの加工品も販売しています。

ところで、農の未来ネットの中心は、農業・農村にひとを誘うアグリ・ボラバイト事業を行うことですが、農業生産活動の結果である農産物が消費者の手にわたり消費されなければなりませんので、そのお手伝いも行うこととしています。農の未来ネットのホームページに「農家の野菜屋さん」などコーナーを設け、アグリ・ボラバイターを受け入れる農家の生産物情報の提供を行います。また、注文から販売については、フェアビнденのお店を拠点にして、お客様とのやり取りを行うこととしています。さしあたり、アグリ・ボラバイター受け入れの吉田さん（埼玉県本庄市）が生産したミニトマトを提供します。運動とともに順次、広がっていきます。

と、言うことで、フェアビнденと農の未来ネットは具体的な運動での連携を大に行っていきます。

